



命はどこにあるのか

命って、どこにあると思いますか？

昨日の朝の会で出したこの問いに、子どもたちは真っ先に「心臓！」と答えました。

心臓は命ではありません。

体中に血液を送り出す大切な臓器ですが、命そのものではないのです。

「たしかに～」と子どもたち。

最近、話の聞き方だけでなく、相槌の打ち方も本当に素晴らしくなってきました。

実はこれ、ある有名な方が長年行ってきた「命の授業」です。

その方の名前は、故日野原重明先生。

私はこの方の本がとても好きで、何度も繰り返し読んでいます。

日野原先生は、100歳を越えても尚全国を飛び回り、そして子どもたちに向けて命の授業を実践されました。

子どもたちに、

「命ってなんだと思う？」

と先生が問いかけると、どの子もきまって心臓に手を当てるのだそうです。

日野原先生は、「それは違います」と優しく諭されて、次のように話されました。

「心臓は”いのち”ではありません。心臓は単なるポンプです。”いのち”は目に見えないものです。確かにあるものだけれど、でも、目には見えない」

では、命とは何なのでしょう。

日野原先生に倣って、私は教室で次のように伝えました。

「昨日も今日も見えないけれど、寝たり、勉強したり、遊んだりするのは、きみたちの持っている時間を使っているんだよ。時間を使っていることが、きみが生きている証拠。つまり、命とは君たちが持っている、使っている『時間』なんだよ」

この授業を、毎年追試しているというわけです。

時間が命。

ということは、みんなは命を使って勉強をしているわけです。

私も、命を使って仕事をしています。

大切な命を使っているのですから、命そのものである時間も無駄に使わず、大切に使いたいものです。



日野原先生は、授業の最後に次のようにも伝えられていました。

「人間は、限られた“いのち”を持つ生き物です。人のために使った時間と自分のために使った時間のバランスはどうなっていますか？

「今はまだ小さいから難しいかもしれないけど、大人になったら、人のために自分の時間を使えるような人になって下さい。」

この言葉を伝えると、子どもたちは何かを考え始めた様子でした。

そして、翌日となる今朝。

多くの子は、朝アイパッドを触っている時間がほとんどなのですが、ふと何人かの子がその習慣からの卒業をし始めたのです。

ある子は、次のようにもつぶやいていました。

「命の時間だからね。」

人生はきっと、命をどのように使ったか、時間をどのように使ったのかということが大きな道を決定していくのでしょ

う。かけがえのない命を大切に使えるように、そしていつかは人のために使えるように、学びを続けていきます。

☆ ↓ 読者ページはこちらから ↓ ☆ ご意見ご感想など気軽にお寄せください

<https://docs.google.com/forms/d/1qqf4cPLcjpcWaimWdu-6IFM73JahODYK4ROldg7jLxM/edit>

